

デジタル時代にこそ残したい “アナログ版・究極の協働学習”

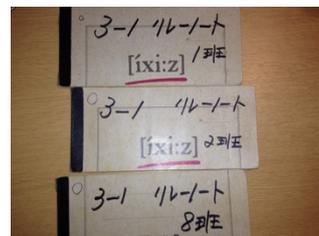
— タブレット端末を超える「リレー・ノート」 —

「綴り方教室」連載チーム 芦田 真一郎（亀岡市立亀岡中学校教諭）

1. 対話的な「協働学習」をどうコーディネートするか

「今日はリレー・ノートを友だちに渡さなあかんから、学校来てん」

これは、筆者が「リレー・ノート」を実践し始めてから数日経ったある日、一人の女子生徒が言った言葉である。衝撃だった。彼女は英語が苦手で、授業に集中できないことも多かった。ついには、学校から足が遠のくようになっていた。だから、彼女の言葉を聞いた時は自分の耳を疑った。「これがリレー・ノートの力なのか…。信じられない。まるでマジックだ」



自分の気持ちを言語化し、仲間とともに「リレー」で内容を練り上げる。生徒に言わせると、「リレー・ノート」はみんなで一つのプロジェクトに取り組んでいるという感覚になるのだと言う。

本誌連載の「3章」（12月から3月）では、「編集力」を取り上げてきた。1章の「読解力」では、内容や相手の気持ちを深く理解することを提案した。2章の「要約力」では、無駄を省き、間を作り、余白を作ることの有効性について述べた。そして、この3章では、授業力の要となる「教師の編集力（授業デザイン力）」について取り上げた。

しかし、それらは教師だけに必要なことなのではない。子どもたちの「思考力・判断力・表現力」を高めるためにも、これらの3つの力は不可欠であり、この「リレー・ノート」は、それらを最大限に活用する活動なのである。

GIGA スクール構想を受けて、現場にタブレット端末が導入された。確かに、デジタルは「ツール（手段）」としての汎用性が高い。簡単に加工編集ができるし、保存もできる。今まで、書くのが苦手だった生徒もタブレットには関心を持っているようだ。

だが、教師がタブレット端末をどう使うか、またはタブレットの中に「どんな教材」を入れるかによって、授業の質は大きく異なってくる。受講生の高橋氏や吉岡氏（いずれも指導主事）に伺うと、「目標」（授業でタブレット端末を使うこと）が「目的」（本時のねらい）にすり替わっている学校が多いというのが現状だそうだ。

3月号の本文解説で紹介されているS.R.コヴィは、ものごとにおいて“win-win”の関係になることを勧めている。これは、相手の立場を考え、相互の満足を得られるように努力するという意味である。この「リレー・ノート」は、win-loseの関係を作らない。英語の得意、不得意も関係ない。

目指すは競争ではなく協力。「リレー・ノート」は、仲間同士の信頼関係の上に成り立つ「互恵学習」である。時間差を作ることで、教師によって急かされることのないので、自然と生徒同士が関わり合う場面が生まれる。お互いの原稿にコメントをする心のゆとりも生まれる。また、生徒自身が自分の間違いに気づき、より伝わりやすい表現を選ぼうとするなど、学習に主体的に取り組むようになる。

「書く」ことは思考を伴う。だが、その思考は、問題解決の中で生まれることが肝心だ。教師に言われたことを書く、指示された通りに書くという場合、それは「自分ごと」にはならない。「リレー・ノート」のテーマは自分



たちで選ぶ。自分たちが関心あること、今、言いたいこと、問題提起など自由自在だ。教師は仕切らない。実は、この「自己決定」「自由度の高さ」「遊び心」は、授業や総合的な学習の時間も活性化させる。それは人間の本能であり、スイッチさえ入れれば最後まで取り組むようになる。

「リレー・ノート」は、アナログである。また、手書きであるため、間違えたところは消しゴムを使って消す。それだけ時間もかかる。だが、ジャーナルや授業のノートとは格段の違いがある。それはノートを「リレー」で回していくことにより、それぞれのページに「多様な価値観」が登場し、読んでいても書いていても「楽しい」という活動になるからである。そこに生まれるのは、相手への関心であり、「言いたい、伝えたい」という思いである。

2. 「リレー・ノート」による協働学習が自律的学習者を育てる

(1) 価値観の違いを楽しむ素地を作る「チェーン・レター」

連載の本文で、主宰が20年以上も前に取り組まれ、著書『だから英語は教育なんだ』や『ヒューマンな英語授業がしたい』（いずれも研究社出版）にも紹介されている「リレー・ノート」について述べた。

「リレー・ノート」をやろうとしたきっかけは、「綴り方教室」のコラム・リレーで、前走者のコラムから学んだことを自分のコラムに反映したり、受講生のコメントから多くを学んだりしたことにあつた。活動を一齐に行うのではなく、「時間差を設けた活動」(Time-delayed activity) にすることで、個々の思考が練られ、内容が深まっていくことを実感したからである。

生徒は、裁断機で3分の1サイズにカットしたノートを使い、4人1組のグループで、ノートを順（1日に一人）に回していく。事前に計画も立てずに、いきなり「リレー・ノート」に取り組むと、生徒の負担感が大きくなる。何より、自分だけが書くのではなく、内容をつなげていくには、読解力が必要になる。また、「連歌」のように、先に書かれた内容をどうつなげるか正しく理解していないと難しい。この「リレー・ノート」には、書かれた内容を読む力、適切な答えを考える力、それを言語化する力が統合的に求められるからである。

そこで、まずは主宰の実践である「チェーン・レター（紙上ディベート）」を、導入として行った。チェーン・レターの活動では、わずか1時間の授業を通して、生徒が意見を「つなぐ」面白さを味わうことができる。この活動を経験することで、互いの意見の違いや、リレー形式でコメントを書き合う楽しさに気づくことができ、「リレー・ノート」の活動に弾みがつくようになる。



チェーン・レターでは、生徒にとってメリットもデメリットもあるトピックを3つ程度用意することから始まる。(例: School is boring. / We don't need six classes every day. など) 次に、各自が選んだトピックについて、B4 または A3 サイズの紙に、3分間で自分の意見とその理由を書く。最後の一文は、「What do you think?」と問いかける。そして、教師の合図で、列ごとに一齐に用紙を交換する。英文を書くのが苦手な生徒も、最初は戸惑うが、仲間の書いた英文を参考にして、なんとか意見をつなごうとし書き始める。活動の終わりに、自分が最初に意見を書いた用紙が返ってくると、教師が何も言わなくても、生徒たちは黙々と仲間の意見を読むようになる。

なる。

それは「自分の意見に仲間は賛成したのか、それとも反対したか」という「知りたい気持ち（知的的好奇心）」、さらに「仲間とコメントがつながっていく楽しさ」を知った喜びが喚起されたからである。

授業の最後には、用紙の余白に感想を書かせるようにする。そうすると、いつの間にか自分たちが膨大な量の英文を速読していたことに気づけるようになる。こうして自らの変容を自覚した生徒は、続く「リレー・ノート」の活動にも主体的に取り組むようになる。

(2) リレー形式で継続的に取り組む「リレー・ノート」

主宰が考案された「リレー・ノート」は、英語力がつくだけでなく、主体性も身につく言語活動である。すでに、全国でもその追実践が広がっているが、ここでは新学習指導要領の観点を踏まえ、主宰がリニューアルされた「リレー・ノート」をさらに充実させ、発展させるポイントやアイデアをご紹介したい。

まず、必要なのは教師側のレディネスである。主宰は、次のようなタイプの教師は、「リレー・ノート」が形骸化して長続きしないと指摘された。

● 生徒の意見や考えに畏敬の念が持てない

・教師が、生徒の感受性の瑞々しさに驚き、彼らのファンになれないなら、生徒の学力を伸ばすことはできない。

● 生徒が書いている内容に関心がない

・教師の関心が、間違い直しがメインで内容が二の次なら、やがて生徒の出力は形骸化していく。

● 生徒に関心を持っていることに寄り添わない

・生徒が顔を輝かせるのは「自分の生活」につながりを見つけた時。「知識の説明」ばかりでは、授業がワクワクすることはない。

主宰は、さらにこう続けられた。「これら3つの視点は『教師の資質として最も大事な部分』であり、それがなければ、何をやってもうまくいきません。」つまり、忘れてはならないのは、授業や学校の主役は教師ではなく、生徒なのだということである。



「リレー・ノート」は、生徒の「自己選択・自己決定・自己責任」を最優先しなければならない。よって、彼らの実態を踏まえ、関心やニーズ、そして時には教師側から「布石」を打ったり、「伏線」を張ったりすることも必要になる。教師がコントロールしようとせず、あくまでも、生徒に寄り添う姿勢がなければいけないということである。この教えを胸に刻み、チェーン・レターの実施後に「リレー・ノート」の実践を行った。「リレー・ノート」に期待した効果は以下の通りである。

- ① 仲間の書いたものを次の仲間へとつなげるために、英語を書く意欲が生まれやすくなる。(つなぐというリレーの効果)
- ② 自分の伝えたいことは、自分で調べてでも伝えたい。(自力でやり切る責任感)
- ③ 自分自身でストーリーや意見を考えるのが楽しく、仲間の多様な考えに触れることができる。(互恵学習)
- ④ みんなで取り組むので、適当に書いて「はい、終わり」ではなく、仲間の文章を読み、思考し、自分の考えが自己更新されて、真剣に取り組むようになる。(協働学習の効果)
- ⑤ 生徒自身がトピックを選ぶので、こだわりを持って取り組むことができる。(自己選択・自己決定)
- ⑥ 仲間の書いた意見がモデルとなり、教師が教え込まなくても生徒が書き方を学び、次に生かすことができる。(モデルを活かすメンタリング)
- ⑦ 普段、教科書本文を読むのが苦手な生徒も、「どんな意見を書いたのだろう」と仲間の書いたことを意欲的に読もうとする。(学びの磁界)
- ⑧ 実生活に即した身近な話題を取り上げることで、内容を自分ごととして捉えることができ、互いの意見や考えを交流しやすくなる。(レアリア)

次に紹介するのは、主宰から教わった「リレー・ノート」を実践する時の「望ましいステップ」である。

- ① 生徒自身がトピックを選び、賛成か反対かなどの自分の意見を書き、議論する。【基本編】
- ② 写真に含まれるメッセージを読み取り、意見を書く。新聞などの記事に対する個人の見解を書く。与えられた役割になりきって、それぞれの立場で意見を書く。【応用編】
- ③ グループでおすすめの内容を指定された語数で編集し、他のグループに紹介する。【発展編】

これら3つの段階を理解し、①から順にステップを踏んでいく。ここでポイントになるのは、教師のビジョン(目的やゴール)と介入(指導)のタイミングである。

まずは、「リレー・ノート」を通して、生徒自身が前述の Time-delayed activity の有用性を実感できるよう、「何のために『リレー・ノート』に取り組むのか」というゴールイメージを生徒と共有する。「リレー・ノート」の目的は「自律的学習者の育成」であるが、各校の CAN-DO リストにある「目指す生徒像」や「つけたい力」につながるよう、教師が生徒に語るようにする。全体構想を練る中で、どの時期に、どこまでの力をつけたいのかというビジョンを明確にする必要がある。授業における単元計画とリンクすることで、教師の介入にブレがなくなり、生徒を正しい山へと導くことができる。



次に、教師の介入に関しては、①から順にステップを踏んでいくようにする。ただ、1ヶ月ほど「リレー・ノート」を継続すると、生徒がマンネリを感じるようになってくる。そのようなタイミングで、②に挙げたような、授業内容に関連した写真や新聞記事などを提示する。生徒自身が選んだトピックではないが、授業や時事問題と関連する内容を取り上げることで、生徒は興味を持ちやすくなる。また③は、書いた意見を班新聞のように提示し、Aグループ対Bグループでどちらの意見の方が納得できるか、といったディベートの要素を含んだ活動にもできる。これら②、③の活動を、どのトピックで、いつ生徒に介入するかを考えることが、教師の「編集力」につながっている部分だといえる。

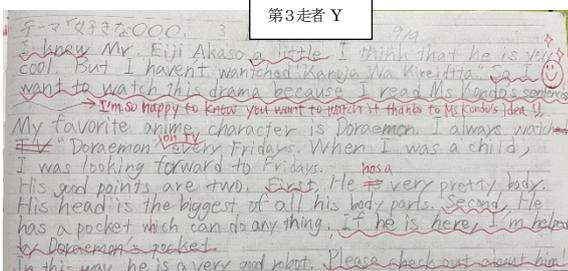
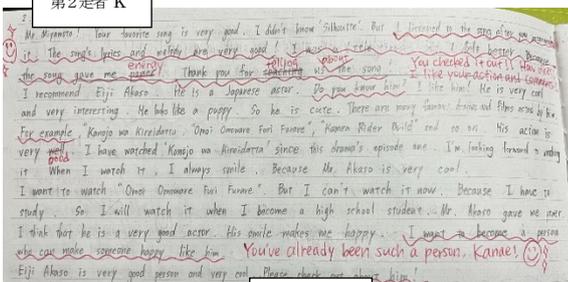
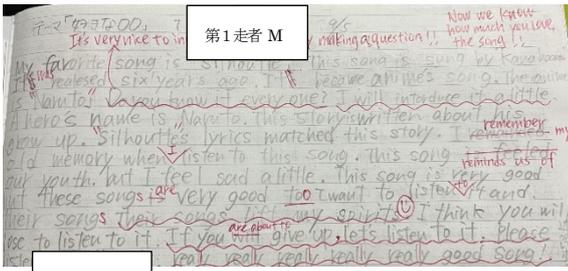
冒頭にご紹介した女子生徒の心理も、「リレー・ノート」によって仲間との協働学習に感化され、前向きになったと考えることができる。ある受講生の書いたメールが、とても大事なことを私たちに伝えてくれているので紹介したい。

「最も衝撃を受けたのが、英語の成績『2』で、いわゆる問題行動も多い生徒が、前の生徒が書いたことを読んでリアクションし、自分のことを一生懸命にびっしりと書いていたことでした。すぐに学年主任に紹介したところ、『うおお!』と歓喜の声をあげられました。その生徒は、『リレー・ノート』をびっしり書いた日の『生活ノート』(生徒全員が担任と毎日やり取りしている日記)に『他の宿題はやる気が出なかったけど、リレー・ノートだけはめっちゃ書いた』と書いていました。『そうなん! がんばったんやな~! 楽しみに読ませてもらうで』と返事を書いて、見せてもらったら本当にびっしりでした。学校とは、仲間とふれあい、切磋琢磨し合う場所なんだと、再認識させられました。自己中心的な考え方が多かった学年集団が、相手の書いたことを受け止め、こんなにも温かいコメントをし合える集団に成長していたのです。いや、彼らはもともとそのような資質があったのだと思います。教師がコントロールしやすいように、仲間同士が『関わる場面』を削ったために、そうなのではないかと大いに反省をしました」

実際に、他でもこのような成果が見られたのかどうかを検証してみたい。ここでは、中学校で行った実践を紹介するが、高等学校ではさらに発展させることができる。

① なぜ、生徒が自ら学ぼうとするのか ～ 「リレー・ノート」 から見た学習者の心理① ～

中学3年生の実践例



なぜ「英作文」の書き方と違っているのか？

気がつくと、3年生2クラス分、夢中になって朱書きを入れていた。間違いを直すよりも、読んでいて、心底楽しかったし、彼らのポテンシャルの高さに驚かされた。なぜかを考えてみた。

それは、「リレー・ノート」は「評価のために書いているのではない」ということである。一人ひとりが思いっきり楽しんで書いている。どのページでも「自己」を包み隠さず出している。

通常、自分が書いたものは教師が読んで、評価をして終わっている。仲間とメッセージをつなげていく、仲間と協力をして作品を完成するということはあまりない。

「自分の書いたこと」に仲間からコメントがもらえること、そして、授業のように「予定調和」ではなく、どんどん臨機応変に変化していくことが楽しい、ということなのではないかと考えられる。

<2組A班 トピック “My favorite ○○”>

第1走者M “My favorite song lifts my spirits. ① If you are about to give up, please listen to it. A very very very ... good song!” (続く)

第2走者K “M! Your favorite song is very good! I didn't know it, but I listened to your favorite song after you recommended it. The song's lyrics are very good! ② I was a little tired, but I felt better because the song gave me energy. Thank you for telling us about the song!” (この後、自分がハマっている俳優 Eiji Akaso とドラマについて書いている)

第3走者Y “I knew Mr. Eiji Akaso a little. I think that he is very cool. But I haven't watched the drama. ③ I want to watch the drama because I read Ms. K's sentences. (続く)

ポイントは3つある。1つ目は、下線部①のように、仲間を巻き込む呼びかけや問いかけをさせることだ。生徒は関心のあるテーマについて自分の考えを書きたい。また、それに対する仲間の意見を読みたいと思っている。Q&A とは違う本物のメッセージのやり取りが、生徒の意欲をかき立てる。

2つ目は、新しい情報を用意させることである。下線部②では、1人目の生徒がお勧めした曲の歌詞を調べ、楽曲を聴いている。仲間の書いた内容を受けて、ネットで調べる。このように内容が「発展」するには、「好き、嫌い」レベルではなく、心が動く内容を引き出させたい。さらに、仲間から肯定的な反応があった場合、書き手はより意欲的になれる。そのためにも、生活班ではなく、学力差・仲の良さを考慮した学習班を作って活動を行うようにしたい。

3つ目は、仲間への共感やリスペクト、感謝の気持ちを言葉にして伝えていることだ。下線部③に見られるように、バトンを受け取った生徒は、前の生徒が書いたことに関心を示し、何とかつながろうとしている。一生懸命に読み取る、伝えようとする空気がグループ内で醸成されていけば、どの生徒も楽しみにするようになる。

② なぜ、どの活動よりも意欲を見せるのか ～ 「リレー・ノート」 から見えた学習者の心理② ～

中学2年生の実践例

第1走者 K

No. 10
 (Where is it?)
 I'll tell you about Otagi Nenbutsu Temple.
 Do you know it? It's very good.
 You can see many Rankanzo. *What's that? Thanks a lot!*
 How many Rankanzo can you see? *o P rankanzo! cool!*
 You can see 1200 Rankanzo.
 But, it has different forms. It's very cute.
 Why ^{does} it have many Rankanzo?
 Find out in Otagi Nenbutsu Temple *ここが寺だね!! 全ての Rankanzo の説明が面白い!!*
 What do you think?

第2走者 R

Otagi Nenbutsu Temple is ^a very good place!!
 I ~~don't~~ ^{didn't} go to Otagi Nenbutsu Temple. (Sorry)
 But, I know it ~~was~~ famous. *yet I'm*
 We can see 1200 Rankanzo. → I see. ~~I'm~~ Surprised *Σ(°Д°)!!*
 What else can you do?
 ~ I want to go ^{there} too ~ *ぜひ行ってみたい!!*

第3走者 N

^{some} (Kiyomizu Temple) has ^{spots} good (buildings). *are good.*
 Especially, the stage of Kiyomizu and Otowa Waterfall *おとわ滝.*
 You can see the ^{beautiful} scene from ^{the} stage of Kiyomizu.
 Also, you can enjoy ^{cherry blossoms} cherry blossoms and momiji. *I want to go and see those cherry blossoms!*
 Which do you like, cherry blossoms or momiji?
 Then, Kiyomizu temple has a long ~~history~~ *history*.
 What do you think? *早く解答を書いてあげたい!!*

リレー・ノートの「コメント」はなぜ心に残るのか?

アンケートでは多くの生徒が「特に印象に残ったこと」として、仲間の「コメント」を挙げた。これには驚かされた。筆者は自分が紹介した内容の方が印象に残るだろうと予想していたからである。そこで、この「コメント」の持つ力について考えてみた。

それは、リレー・ノートは「自分の意見を一方的に書くのではなく、「仲間同士の意見のつながり」にこそ楽しさがあるということである。前に書いた仲間の意見を読み、コメントを I like it. といった1文で終わらず、5文以上の英文で返していた。

仲間へのコメントは、リレーにおける「バトンパスの大切さ」にあたると思う。リレーでは走る速さだけでなく、「思い」も1つにしないと良いバトンパスはできない。生徒たちは、先に書いた仲間の「思い」を共有して、コメントを返していた。

どのような手順を踏めば、相手の気持ちに寄り添った温かいコメントを書けるようになるのか。それを、今後も「リレー・ノート」を継続する中で見つけていきたいと考えている。

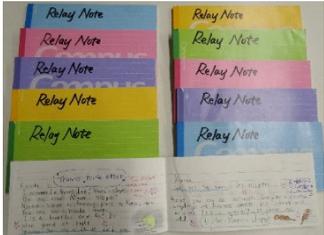
<1組 K 班 トピック“What do you recommend to the new ALT as the best spot in Kyoto?”>

第1走者 K “I'll tell you about Otagi Nenbutsu Temple. Do you know it? (中略) You can see 1,200 Rakanzo. However, it has different forms. Why does it have many Rakanzo? Find out in Otagi Nenbutsu Temple, please! Well, what do you think?”

第2走者 R “Otagi Nenbutsu Temple is a very good place!! I didn't go there yet. (Sorry.) But I know it is famous. We can see 1,200 Rakanzo. → I see. I'm surprised. Σ(°Д°)!! What else can you do? I want to go there too. (この後、自分のお勧めの場所を紹介している)”

第3走者 N (R へのコメントを前のページに書いている) I recommend Kiyomizu Temple. Do you know it? It has some good spots. Especially, the stage of Kiyomizu and Otowa Waterfall are good. (続く)

最初のリレー・ノートが終わった段階で、3つのグループがかなり丁寧にコメントをしていて、ハツとした。早速、それを見せた。すると、「すごい!」「うわあ、ヤバイ!俺そんなに書いてへんかった」とクラスが湧いた。それをきっかけに、クラス全体のコメントがどんどん変化していった。それが、普段の授業でも波及効果となって現れた。普段の授業でチャットをするときはもちろん、ペアでリテリングをした後にも、“Thank you for your speech. I like your pictures. What did you do last winter?”などとコメントをする生徒が増えるなど、生徒のコミュニケーションに良い影響が出ている。



③ なぜ、「役割」があると表現力が高まるのか ～「リレー・ノート」から見た学習者の心理③～

中学2年生の実践例

Chromebookを使った事例

● Junior high school students should wear school uniforms.

以下の立場から意見を述べる。

- ① I'm a junior high school student.
- ② I'm a parent of a junior high school student. |
- ③ I'm an exchange student from Canada.
- ④ I'm a junior high school teacher.

※生徒の原文ママ

コウヘイ 10月20日
I'm an exchange student from Canada. I think wearing school uniforms is an awesome idea! Do you guys think so too? I didn't know that junior high school students wear school uniforms in Japan. Did you guys know? I was surprised!! I want school uniforms. Because don't need to choose clothes. There aren't school uniforms in Canada. So we need to choose clothes every morning. But I don't have a time every morning. Because I can't get up early. ☹️ If there are uniforms in Canada, I'm happy! Because it's okay to sleep a lot! I think wearing school uniforms is an awesome idea! How about you?

マサト 10月21日
seihuku iyatarou [My name is seihuku iyatarou. I'm a junior high school student. I don't think junior high school student should wear school uniforms. Also I think that even pajamas are good. Because pajamas is easy to move. Uniform is hard to move.]
PARENTS [Are you going to school in pajamas? Are you kidding?]
seihuku iyatarou [I can study in pajamas! OK, Which do you like better, pajamas or uniforms?]
PARENTS [Umm, maybe, pajamas.]
seihukuiyatarou [So I think that even pajamas are good. Also pajamas don't have time to change.]
PARENTS [I think so too bro!]

After all, I don't think junior high school student should wear school uniforms. I like pajamas.

シュン 10月26日
I'm a parent of a junior high school student. I prefer a jersey. There are four reasons. First is because I have to send it out for cleaning. Second I thought the jersey was easier to live in. Third if the uniform gets dirty it's difficult to. Fourth there is no point in being in uniform. So I thought the jersey was better. How about you?

コウヘイ 11月2日
Thank you for commenting. Seihuku iyatarou, you want to wear pajamas? That's a very good opinion! you want to wear jerseys? That sounds good, too! I agree with you guys. Because your ideas are very interesting! But I don't want to wear jerseys. Because I don't like Ida Junior High School's jerseys. It's blue. But I don't like blue. I like white! It's a very cool color! So I want to wear my white jersey. If I can do it, I'm very happy! And I'll like to go to school!!!!!! What do you think, Seihuku iyatarou?

ナタリー 11月4日
Hi, Group C! You guys have interesting ideas about school uniforms! I enjoyed reading your opinions.
Kouhei - You want to wear a white jersey? But isn't it easy to get it dirty? I think it is hard to keep white clothes clean. Don't you think so?
Seihuku iyatarou - You had an interesting conversation with your parents! If you wear your pajamas to school, maybe it will be too comfortable, and maybe you will fall asleep in class. What do you think?
Shun - I agree with you that uniforms are difficult to clean. What if you can change the design of the uniform? For example, in some private schools in Canada, students wear a polo shirt and pants as their uniform. I think they are more comfortable and easier to clean than Japanese school uniforms. Do you think it is a good idea?
Keep up the good work, guys!

「一人一台端末」を活用すれば、コロナ禍であっても、非対面・非接触でリレー・ノートができる。ここではChromebookを使ったデジタルでのリレー・ノートの実践を通して得たことを紹介する。

1. タブレット端末の扱いについて

タブレット端末の扱いに関しては、家庭へ持ち帰りができるかどうかなど、各学校、自治体によって様々だと考える。

実践を始めた当初は、端末の持ち帰り可、休み時間も特に規制はなかった。しかし、実践中に持ち帰りと昼休みの利用が共に制限され、バトンパスがスムーズにいかなくなった。ルールづくりの大切さを痛感すると共に、生徒にタブレット端末使用上のモラル等を指導していく必要性を感じた。

2. デジタルでのメリットについて

英語のタイピングスピードがぐんとあがったと実感した生徒が多かった。

導入時には、チェーン・レーターをGoogle Document上で行った。クラスメートがリアルタイムで編集をするため、「もうこんなに書いている！負けれない」という刺激になったようである。Padletなど他のアプリを使ってリレー・ノートができないかを検討したが、最終的にはGoogle Classroomを使うのが一番いいと考えた。

また、非対面であることから、学校に足が向きにくい生徒や、感染症を理由に自宅学習をしていた生徒が積極的に参加する姿が見られたことが大きかった。

レイ 10月21日
I'm an exchange student. I think junior high school students should wear school uniform. I have two reasons. First, I want to wear a uniform. Because, we have no uniform in Canada. It has many kinds of color and shape. Especially, I want to try on tie. Second, it takes a lot of times to choose clothes every morning. If there is a uniform, we don't have to worry which clothes put on every morning. Therefore, I think junior high school students should wear school uniform. Do you think junior high school uniform is good?

ラクト 10月26日
I'm a junior high school student. I don't think I have to wear school uniform. I have two reasons. First, the uniform has a lot of buttons and aren't cool. Second, the uniform is difficult to move. I like soccer, so I sometimes go to the ground after lunch to play soccer but it's hard to move. Because I wear sports wear, under the uniform. So I don't think I have to wear school uniform.

アキト 10月28日
I'm a parent of a junior high school student. I disagree with this idea. Because school uniform is only wear at school. So you shouldn't have to buy school uniform. And school uniform is expensive. It's a waste of money to buy a uniform. And school uniform is don't wash at home. I have to go to the dry cleaner to wash the school uniform.

ナタリー 11月4日
Hi, Group F! You guys shared some good ideas about school uniforms.
Rei - How about choosing your clothes for school before you go to bed? Then you won't have to get up early in the morning to choose clothes.
Rakuto - I agree with your idea about playing sports at lunch break. I think it is easier to play in sports wear too!
Akito - You had some great ideas about school uniforms. I agree that they are expensive and hard to clean. What if you can change the design of the school uniform? For example, private school students in Canada wear a polo shirt and trousers as their uniform. This kind of uniform is less expensive and they can be washed in a washing machine at home. What do you think?
Keep up the good work, guys!

ポイントは、「役割」を与えることで、一気に「なりきり作文」の内容が深まるということである。架空の人物を登場させるなどの工夫も見られた。指定された役割の人物以外の登場人物を自ら設定するなど、決め決めにするのではなく、自由度（オリジナリティ）を高めておくことも重要なことである。いずれにしても、生徒任せのトピックばかりではなく「与えられた役割の視点からものごとを見る」という指導は、今後のディベートやプレゼンテーションにつなげるプロセスとして欠かせないと考えている。



4 発展編（他の班との交流「ア・ラ・カルト」）

	内容（アイデア）	指導の手順	交流の際のルール・配慮すること
中 2	「リレー・ノート」からの テーマで チャット	<ol style="list-style-type: none"> ① 各グループから出された「私たちが取り組んだトピック」を一覧にして、提示する。 ② その中から、ペアで、チャットをするトピックを選ぶ。 ③ 自分たちの選んだテーマでどのような話ができそうかを各自がマッピングで広げる（1分）。 ④ ペアでチャット。interview mapping で行う。インタビュアーは、相手の話したことをマッピングしながら、さらに掘り下げる（一人2分）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャットのトピックは、自分たちの「リレー・ノート」で扱ったものでも、仲間が取り組んだものでもよい。 ・教師は、他の班の「リレー・ノート」のコピーを事前に配布して読ませておく。 ・ペアを適宜替えて、継続的に活動を行う。 ・新しいトピックで一巡したら、随時チャットのトピック一覧に追加していく。（チャットのお題集とする）
中 3 以上	「リレー・ノート」からの テーマで チャット や ミニ・ディベート	<ol style="list-style-type: none"> ① 自分たちが取り組んだ「討論」のトピックから、他のグループと対戦したいお題を2つ提示する。 ② ディベートで対戦する相手の班を決める。 ③ 「リレー・ノート」で主張したことを班で確認し、担当（立論・反駁）を決める。 ④ それぞれ、お互いのテーマから1つずつ選び、対戦する。（立論2分・反駁1分・立論2分・反駁1分・自由討論2分）他の班は審査をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「リレー・ノート」の内容を引用するときは一定の表現（In my group, A said,...など）をルールとしておく。 ・ディベートが終わったら、全員が What I learned through Relay note debating というテーマで英作文（100語）をロイロノートに書き込む。教師は、それをまとめて後日、コメントをする。
	「 リレー・ノート大賞 」 ① ベストオピニオン賞 ② ベストプレゼンター賞	<ol style="list-style-type: none"> ① 3つの班が1組になって行う。自分たちが書いた「トピック（私の主張）」について、順に一人ずつノートを見せながらプレゼンをする。（交代する） ② プレゼンを聞いた班は、1つのプレゼンに対して1つか2つの質問をする。 ③ 最後に「最も納得できた主張」を1つ選ぶ。また、No.1 プレゼンターを選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの際に使ってもいいのはタブレット端末とし、プレゼンテーションソフトで使用スライドは3枚とする。 ・主張の骨子は、事前に印刷で他の班に配布しておくようにする。
	「リレー・ノート」を使った 紙上ディベート対抗戦	<ol style="list-style-type: none"> ① 各グループから出された「私たちが取り組んだトピック」から班対抗ディベートのテーマを選ぶ。 ② 隣の班とテーマを自己申告し合い、1週間かけて、「リレー・ノート」で班内の模擬練習を行う。 ③ 本番は、1日おきに相手の班とノートを交換し、1人目は立論、2人目は質疑や反論、3人目は相手の質問への回答、4人目は反駁を書く。 ④ ノートのコピーを掲示し、投票で勝敗を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰が立論を行うか、誰が反駁をするか、得意分野を生かした作戦を考えさせる。 ・一役一人ではあるが、同じ班内での協力は積極的に行ってよいことにする。 ・班内でリサーチを行い、具体例を挙げたり、データを引用したりするように促す。 ・“○○ said □□, but ~”など、互いの議論が噛み合うように意識させる。
	付箋紙で選ぶ「ベスト・リレー・ノート」	<ol style="list-style-type: none"> ① リレー・ノートを開始してから1ヶ月たった頃に、ノートをシャッフルして、違う班に配る。 ② 他の班の「リレーノート」を読み、付箋紙（大きめ）を使ってコメントを書いて貼る。 ③ 最後は元の班に戻して、書かれたコメント、仲間からのフィードバックについて話し合う。考えたことや感想をロイロ・ノートに書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提示する時には、他の班のノートで「いいな!」と思ったことや「真似したい!」と思ったことを取り上げるよう促す。 ・付箋紙に書かれていたことで、印象に残ったことを全体で紹介する。（班の代表） ・英語でコメントを書くことにこだわらないようにする。
「 リレー・ノートからジャーナルへ 」 (150語から200語)	<ol style="list-style-type: none"> ① 学期の途中で、自分たちの「リレー・ノート」のトピックの中から「これはぜひ知ってほしい」という内容を班ごとに決める。 ② 書かれた内容を班で要約し、構想を練る（キーワ 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に班ごとに取り組んだトピックの一覧を配っておき、作戦を考えさせる。 ・マッピングだけの段階で、中間発表をする（隣同士の班に説明をして、わかりにくい 	

中 3 以 上		<p>ードをマッピングでつなげる)。</p> <p>③ 班で作ったマッピングをもとに、全員がジャーナルの記事を書く。(自分のタブレットに)</p> <p>④ 個人で書いたものを班でまとめてジャーナル(新聞形式)を完成させる。(ロイロ・ノート利用)</p> <p>⑤ 全員が作品を読んだ後で、投票をする。</p>	<p>ところ、いいところを評価しあう)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるだけイラストや写真を入れる。 ・辞書に頼らないで自分の力で伝える。 ・投票は、一人3票とし、教師が開票をする。終わった後、なぜそれがよかったのかを全体で話し合う。
	<p>「リレー・ノート」から 地域へ発信!</p>	<p>① 「リレー・ノート」に「実は、地球は良い方向に向かっている」ことを示す「ファクトフルネス」の例から探して紹介する。(1ページ) (例-オゾンホール層は実はなくなってきている)</p> <p>② 全員が書いたら、それを縮小コピーで一覧にする。どの「良いニュース(ファクト)」が一番驚いたのかを投票してランキングを決める。</p> <p>③ トップ5に選ばれたニュースを、新聞にまとめてHPか学年の掲示板に掲載する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りでも起こっている「ファクトフルネス」の事実を紹介する。(例:「最近の若者が批判されることは多いが、こんな風に地域に貢献している学校がある!など) ・発表したり、投票したりしあった内容を、クラス内でとどめず、HP掲載や、地方自治体にまとめた結果を届けるなど、地域社会とつながる場面を用意し、自分ごとになるように位置付ける。



どんな活動も、最初に準備をして、それをやらせっぱなしにするのではなく、教師が①仕掛け、②揺さぶり、③仲間のよい取り組みをタイミングよく知らせる、④競わせる、など活動の質的向上を「意図的・継続的」に仕組まなければなりません。「遊び心」のある教師はゴールと許容する枠を持っており、活動を成功させるためのルールも緻密なので、ここぞという時は大胆になれる。収束のタイミングも察知出来るので、慌ててブレーキを踏んだりすることはありません。

「リレー・ノート」で大切なのは、あくまでも教師のコメントは「内容」に特化するということです。生徒が「楽しい」と思える活動になるよう、どんどん変化を加えていくことです。私はできるだけALTにコメントを書いてもらいました。間違いを修正するよりも、内容を深めるためのヒントや意図的な「挑発」をお願いしておき、TTの授業でも「リレー・ノート」から取り出したテーマでチャットやミニ・ディベートをさせましたが、非常に有効に働きました。

避けたいのは、教師の欲張った発想(何とか教科書の内容に繋げようとする)ことです。「教科書の続き(宿題)」ではなく、逆に「別次元」を用意し、授業ではなかなか作れない仲間との関わりを生かして、意欲や関心を高め、それを授業につなげるようにします。「リレー・ノート」は、その起爆剤となります。生徒は、自分たちで選べるからこそ楽しいのであって、「教科書の続き」では「やらされている」とか「息苦しさ」を感じるようになり、「リレー・ノート」が停滞(一部の生徒が出さなくなる)します。停滞、単調は「倦厭」(飽きて嫌になること)を招きます。「仲間とのチャット(伝えたい)優先、お勉強は+α」と割り切ることが成功につながります。

トピックですが、SDGsの問題やバイオミクリーなどのトピックは、実体験が少ないので、「自分ごと」にはなりにくく、教科書で得た知識や感想レベルのことしか書けず、すぐに停滞します。また、英語が苦手な生徒は授業の延長のように感じ、気持ちをリセットできません。これに対して「スマホ首」や「スマホと学力」などのトピックは「生活」と密着しており、生徒は体験談や悩みを語ることができます。「受験生なのにスマホをつい触ってしまうという葛藤」や「スクリーンタイムの活用」など実体験に基づく具体的な提言が生まれます。ただ、教師がツッコんだり、友だちの考えに反論したりするものではないので、発展性はあまり期待できず、どちらかといえば単発型です。できるだけ、トピックを debatable, controversial issues にすることです。身近で、しかも意見が拮抗するトピックであればグループを何巡もします。

「交流」の活動は、「リレー・ノート」によって「つなげる喜び」を感じた生徒が、もっと広い範囲で違う意見を聞きたいと願っている時にタイミングよく用意することが大事です。ノートが盛り上がってもいないのに、教師が無理に「交流」させようとすると、逆に負担感が生まれてしまいます。

3. どんな生徒も「リレー・ノート」に夢中になる

「リレー・ノート」を進めていくと、生徒たちの書く内容が単発になり、意見を主張するだけで深まらない（盛り上がらない）こともある。それは、「リレー・ノート」を書くときのテーマが魅力的でないことが原因だと考えられる。受講生たちが悶々と悩んでいると、主宰から次のようなメールが届いた。



上手い出来ないのは、全て原因があります。「課題」がまずいのです。“My Favorite ○○”は「題材」です。これだと、ただ書いて終わります。▲▲先生のクラスの場合、たまたま、一人の生徒がグループの仲間に関心かけたことでつながったわけですが、「バトン・パス」の時のルールをしっかりと

決めておかなければなりません。リレーの **take-over zone** はバトンを渡す範囲（現在の 100m×4 の場合は 30m）を示しますが、そもそも **take-over** とは「引き継ぐ」という意味です。よって、相手が後を受けて気持ちよく走り出すためには、「自分ごと」や「自己完結」の内容のまま、相手に渡してはいけません。

たとえば、◆◆先生の与えているトピックは発展性がありません。「リレーのテーマ」としてはつながりにくいので、意欲がわかないのだと考えてください。できるだけ、2つの考え (Yes, No) が出てくるような **controversial** なテーマ、さらには書いていて多様性が出てくるようなものが望ましいです。

- × 日常生活の話題（同じような内容になりがち）
- × お気に入りの○○（食べ物、お菓子、映画、スポーツ、ゲーム、アーティスト etc. では書いて終わり）
- × 今考えていること（スーパーの近くに住むことについてどう思うか、家族への感謝、オールナイトは良いか悪いか etc. といった内容では、抽象的すぎる。大事なものは「中学生にとって」と言う問題提起。）
- × 行きたい国（何を見たいか、食べたいかと言うレベルになる。「将来住みたい国」なら別）
- × Which is better, camping in the mountain or camping by the sea?（なぜキャンプ?）
- × Which fits better for rice balls, salmon or tuna mayo?（主観・好みの問題）
- × What is the best Doraemon tool for you?（いつ何のために使うのかと言う目的がない）

これらは、全て、授業でやっているような「単発」（個人）の意見で終わります。仲間呼びかけていないので、ワクワクしません。一見、**better** が入ると良さそうなトピックに見えますが、「季節」や「誰にとって」といった定義が入っていません。すると、途端に「生徒の主観」レベルの **opinion** になります。**fact** でない限り、「共通の話題」にはなりません。

一方、次のようにすると「題名」になり、仲間とつながるようになります。

- “□ will help you …”

「□は、あなたが困っている時に…できるようにしてくれる」というような提言だからです。

- Which is more useful for junior high students to become familiar with classmates, camping in the mountain or camping by the sea in summer?

単に山に行く、海に行くでは「何のため」がないので、思いつきレベルになります。教師が、安易な考えで「表面的なトピック」（従来の、文法定着の英文を書かせる指導）を与える限り、生徒は本気になって書こうとはしません。

先ほど、**take-over** の時のルールが大事だと言いましたが、次のようなことが必要です。

- ・最後の行まで書くこと（写真やイラストなども臨機応変に入れること）
- ・ノートを汚さないこと（飲食をしながら書かない、消しゴムのカスを残さない、など）
- ・綺麗な字で書くこと（時間をかけて、仲間が読みやすい字で書くこと）
- ・最後は必ず **What do you think? Let me hear what you think about it.** と書くこと
- ・和英辞書で調べた単語は欄外に*注釈を入れておくこと、など

「リレー・ノート」の内容が深まらなかったときには、教師がそれを把握し、テコ入れをしなければならない。うまく行っている班の内容を紹介したり、早めに、トピック（お題）を切り替えたりする。そのような緻密な授業デザインが不可欠なのだとわかった。

テーマ設定について、生徒がワクワクして仲間とつながりやすいものを紹介する。これは生徒が「アンケート」（仲間と話してみたいこと、書いてみたいこと）に書いたものである。

【議論が生まれ、生徒が書きたいと思う「リレー・ノート」のテーマ一覧】

1	タイムマシーンで行ってみたい時代	9	嫌いな食べ物
2	生まれ変わるとしたら何になりたい	10	どの童話に登場して何をしたい？
3	田舎と都会ではどっちに住みたいか	11	たこ焼き派 or お好み焼き派？
4	亡くなっている人で会いたい人	12	洋菓子派 or 和菓子派？
5	ドラえものの秘密道具で使いたいもの	13	今までで一番緊張した瞬間は？
6	未来に行けるなら、何歳の頃がいい？	14	自分を育てるのは勉強か運動か
7	1日だけ異性になれるなら何をしたい？	15	お金か時間かどっちが大切か
8	東京と大阪、遊ぶならどっち？	16	見るなら映画かドラマか

4. 生徒は「リレー・ノート」から何を学んだのか

「リレー・ノート」を経験した生徒たちは、どのような感想を持ったのだろうか。以下はアンケートに書かれた生徒の声とその考察である。

① 賛成や反対など、お互いの意見をやり取りすることの面白さと難しさ、また伝えたいけど、うまく伝えられないというもどかしさが、更なる向上心を生む。

- ・ 賛成か反対か、自分の意見を書くことがとても楽しかった。友達の意見を読むのも面白かった。
- ・ 前の人が書いたことと、どんどんつながっていくのは楽しいし、すごいと思いました。英語で会話をしている感じが良かったです。
- ・ 徐々にみんなの書くレベルが上がっていて、どんどん成長を実感することができた。
- ・ 習った文法だけで、様々な表現の文を作れた。書き終えて読み直した時の達成感が大きかった。

② 教師が教え込まなくても、仲間の意見や使っている英語の表現から、お互いに学びあうこと（互惠学習）ができる。

- ・ 仲間の書いた英文を読むのはとても楽しいし、その人から書き方を真似したりできる。
- ・ 無理に難しく長く書く必要はなく、簡単な英語で相手に伝わりやすい英文を書いていたり、新しく習っていない単語には、意味をつけてくれたり、和訳を書いてくれたり、相手への思いやりがある英文で読みやすかった。言語は違っても、相手へ伝えようとする部分は英語も日本語も一緒だと思った。

③ 教師（ALT を含む）の介入がカンフル剤となり、学ぶ意欲を飛躍的に高める。

- ・ 先生も一緒に「リレー・ノート」をしているみたいで楽しかったし、先生の意見も知れるので嬉しい。
- ・ 共感してもらえて自分の意見がしっかり伝わっているんだと嬉しくなった。
- ・ 先生やALTが褒めてくれ、途中で友だちの内容についてコメントが書いてあったので、その人のものをみて研究し、また頑張ろうという気持ちになれた。
- ・ コメントがしっかり書いてあった。長時間考えて書いたのが、たった3、4文で書かれることがなく、先生もしっかりとコメントを書いていたので、前向きな気持ちになった。
- ・ めちゃ面白い。先生が話のオチを作ってくれた。



④ 読む・書く力だけではなく、話す力やその他の多くの力をつけることができる。また、ノートに履歴が残ることで、自分自身の成長を実感しやすい。

- ・ 賛成する、反対するという自分の意見を伝えること、自分の意思を明確にする力がついたような気がしました。さらにそれは「なぜ」なのかという理由を伝える力もついたと思います。
- ・ 前の人の意見について書かないといけないから、長文読解力がついた。
- ・ 一つの議題について自分の意見を出し、掘り下げる力も同時に育成できた。友達の文を読解することで英文全般を理解する力もついた。
- ・ 自分で考える力と、辞書で単語を調べることが習慣づける力がついたと思います。「リレー・ノート」には他の人の意見がたくさんあるので、「あ！こんな考え方もあるんだなあ」と思ったり、その人の意見を読んで違う意見に変わったりすることもありました。
- ・ 多くの人の意見を読んで、視野が広がったような気がする。

5. 「リレー・ノート」に取り組んで（最後に）

「リレー・ノート」に取り組んで、多くの発見があった。生徒の声からも分かる通り、「力がついた」取組みとなった。しかし、これほどまでに効果がある「リレー・ノート」に、なぜ今まで取り組まなかったのか。受講生の中でも「知っていたが実践したことはなかった」と言う声が多かった。受講生で話し合ったところ、以下のような声が聞かれた。

- 「私の生徒は英文が書けない、ノートを持って来なくなる、なくす」などと思い込み、生徒の力を過小評価していた。
- 指導がうまくいかず、途中で生徒が「もう嫌だ」と自信を無くすのではないかと不安であった。
- 「教師がノートのチェックを続けることができるか」という長期間の指導に自信がなかった。
- 「間違いの修正」が主になると思い込んでいた。（実際、読んでいてこんなに楽しいとは思わなかった）

これらの理由から、受講生は「リレー・ノート」の実施をためらっていたことが分かった。しかし、これらは全て教師の都合であり、生徒を主語にして教育を語ることができていない現場の実態が浮き彫りになった。そもその原因は、教師間で、「目指す生徒像」が共通認識されていないことにある。「リレー・ノート」を実施できなかった受講生の告白を聞いて、主宰は次のように言われた。



シンプルに「なぜ今まで書く指導に食指が動かなかったのか」を掘り起こすことが大事です。「生徒の力を過小評価していた」「自信をなくすのではないかと考えて、二の足を踏んだ」という意見も出ているようですが、私は、根っこは違うように思っています。

それは、生徒理解の弱さよりも、「自分の軸足がない」ということです。授業名人と言われている教師が「書く」ということ（特に自己表現）を重要視してきたのは、それこそが「学力向上の鍵」であるからです。どう書けばわかりやすい内容になるのかという「文章の構成」について、普段から、授業中に指導をしておくことがとても大切なのです。書くことを宿題にしてしまっただけでは、正しくまとめることができなくなってしまいます。音読の指導同様、学校で『型』が身につくまで徹底することが不可欠です。

また、書く活動を仕組むということは、教師がそれを読んで直す、コメントを書くということになり、非常に時間（手間暇）がかかります。「働き方改革」が誤解され、真っ先に削られることになったのが、書く活動です。書くことを疎かにすると、ますます学力が低下していくように思います。

「自分の軸足がなかった」という部分を読んだ瞬間、筆者は生徒に申し訳ない気持ちでいっぱいになった。いつの間にか、「効率の良さ、楽であること」を優先して指導していたことを猛省した。

冒頭でタブレット端末を使った授業のことを述べた。タブレット端末は手段であり、使い方次第では、今までできなかったような授業も展開できると思う。だが、受講生たちが一斉に「リレー・ノート」に取り組み、どの学校でも生徒が同じようなコメントを書いていることがわかり、これが「主体性を身につける活動」であり「英語力を高めるプロセス」なのだと確信した。

この「リレー・ノート」は、デジタル時代に残すべき「アナログ版・究極の協働学習」である。それを通して、生徒の「思考力・判断力・表現力」を高め、彼らが主体的にものごとに取り組もうとする態度を育てる。そのためにも、教師自身ももっと「編集力」を磨き、彼ら以上の「自律的学習者」として成長していきたい。